

双月刊行有料宅配誌／編集兼発行人・中村公曾

蒼蒼

第107号

2002年10月10日発行
宅配料2年12号1000円
(小額郵便切手可)

株式会社蒼蒼社／東京都町田市森野2・26・16

台湾老總統と中国人留学生

高橋政陽
(テレビ朝日台北支局長)

「私たち中国人学生にも台湾の人たちは優しく接してくれました」大連出身の女子学生(27)は、初めての台湾訪問で感じたのは人情の厚さだったと流暢な日本語で話した。天津出身の男子学生(23)も口を揃えて台湾人の親切さ、優しさを感じた、という。

旧知の茅原郁生拓殖大学教授が中国人留学生二人、台湾人留学生二人を含む学生二十三人を一人で引率して、八月下旬から九月初めにかけて台湾を訪れた。当初はゼミ合宿の予定だったこの研修は、「台湾はどこへ向かうのか」というセッションナルなタイトル、そして李登輝前總統をはじめとする台湾の政財官各界要人との会見もふんだんに盛り込まれたその贅沢な内容に、茅原ゼミ以外の学生からも希望が殺到。結局は全学部を横断した合宿になった。

折しも陳水扁總統が一辺一國論を打ち出して中台間に緊張が高まっていた最中、中国人留学生の二人はとも将来を心配する父親の反対に遭った。二人の父親は私営企業の経営者だという。必死に説得して踏んだ台湾の地だけに、その人情を感じるのも一人だったのかも知れない。

学術交流などで中台間の人の往来は少なくないが、日本に留学している学部生が来たというのには寡聞にして聞いたことがない。これが初めてではないか。二人の訪台を阻もうとしたのは、父親の反対ばかりではなかった。茅原教授によれば、大学内の一部が憂慮を示し、台湾当局も二人へのビザ

発給に厳しい条件を示してきた、という。台湾にメリットのある人だけにビザを発給している、博士課程ならともかく……、というのがその理由だった。姉妹校の東呉大学学長らの招聘状を得て、ようやくビザ発給を受けたが、一人はビザの発給が間に合わず空港で着地ビザを手にしたほどだった。台湾人の中国訪問は原則自由、今では上海周辺に五十万人もの台湾人が住んでいるといわれているが、中国人の台湾訪問には大きな障害が今なお立ちはだかっている。

研修プログラムには許水徳考試院院長、曾永賢資政(總統府上級顧問)表敬訪問のほかに関防大学、法務部調査局など国家機密に関する機関の見学も含まれていた。茅原教授は二人を連れて行くことに躊躇った、と正直に告白する。しかし、その心配は杞憂に終わった。当初は難色を示した各機関も結局は二人を分け隔てすることなく、日本人学生と同じように接したのだ。「台湾のオープンマインドな姿勢をおおいに評価したい」帰国を翌日に控えた夕方、茅原教授はホッとされたような笑顔を見せた。

今回の研修のハイライトは、やはり李登輝前總統との会見であろう。中国人学生を

相手にどんな表情を見せるのか。そこにお
おいなる興味を感じて、野次馬根性旺盛な
日本人記者は茅原教授の居室に二人を訪ね、
感想を聞いたのだった。

台湾総合研究院に学生一行を迎えた李前
総統は賓客を迎える時と同じように、学生
一人ひとり握手、挨拶を交わした。そし
て、台湾人の悲哀、台湾アイデンティティ、
兩岸関係などでひとしきり持論を展開した。
その後の質疑応答が終わってみると、定刻
を十五分オーバー。李前総統と学生、双方の
熱い議論、思いが伝わってくる。

男子学生は、二〇〇〇年総統選挙でなぜ
国民党は敗北したのか質問した、と胸を
張った。女子学生は今や李前総統の持論と
もなっている大陸投資自殺説に「大陸投資
は難しいという考えには賛成できない。そ
れを質問したかったけれど時間がなくてで
きなかった。残念です」と唇をかんだ。

会見室を出ると、日本人学生は李前総統
に記念写真撮影を頼んだり、その著書『台湾
の主張』にサインをねだったりと、打ち解け
た雰囲気包まれた。李前総統も求めに応
じて学生と再び握手を交わし、激励を重ね
ている。台湾人留学生は感激の余り、涙を流

した、という。その中で、緊張して立ちつく
している二人に茅原教授は気づいた。その
二人に李前総統が近づいて行く。茅原教授
は息を呑んでその瞬間を見ていた。出身地
などを訪ねる李前総統、こちらも緊張した
気配だった。

「明らかに雰囲気の違いがありました。ともにぎ
こちなかったのは間違いありません」

茅原教授は、その瞬間を振り返る。

「李登輝さん、ちよっと身構えすぎだった
ように見えました」

李前総統は他の学生とは会見の冒頭と、
会見室を出てからも握手をしていたが、二
人とはここで握手をするのも忘れて出て
いってしまった、という。

一辺一國論直後ということもあって、父
親から訪台を反対された二人が二國論の家
元、李前総統に近づくことに緊張を覚える
のは容易に理解できる。しかし、ミスター民
主主義とまでいわれる李前総統が二人の中
国人留学生に対して、緊張するとは……。総
統、国民党主席退任後、独立色の強い台湾団
結連盟の精神的指導者となって、台湾アイ
デンティティの早期確立を訴え、大陸投資
の危険性を強調している自分が、中国人留

学生と打ち解けている姿を他者に見せた
なかつただけなのか、それとも心底の中国
嫌いから中国人留学生に近づけなかつたの
か。機会があればいずれ、李前総統に直接問
いかけてみたい大きな命題だ。

「政治はおいて人の交流を拡大すればいい。
人の往来が広がれば双方の理解が深ま
り、戦争にはならない」

「大陸の人間が台湾に来るのは難しい。だ
からこそ、自分が見たこと、聞いたことを大
陸の若者に伝えたい」

「中国では台湾、台湾独立のイメージは良
くない。でも台湾に来て台湾はこのままで
いい、今のままでいいと初めて思えた。中国
も将来、台湾のようになると願っている」

「機会があれば台湾に住んでみたい」

李前総統を前に緊張した二人も、翌日に
は帰国という安心感から、十四日間にわ
たつた研修を振り返ってこのように語った。
男子学生は部屋を出る前に立ち上がり、
「茅原先生、今回台湾に連れてきてくださ
さつてありがとうございます。僕の人生
は変わりました」

と深々と頭を下げた。

陳総統の一辺一國論以来、台湾の外交政

策は李前総統が提唱した南向政策に回帰し、
呂秀蓮副総統にインドネシア隠密訪問を敢行
させるなど、外交的突破に躍起になって
いる。しかし、その足下の兩岸の間で自立ち

はしないが、極めて意義深い本物の突破
があったことが台湾での現地研修を終え
るに当たっての言葉の中から理解できた。
茅原教授はさらに、突破を指摘して、

来年は台湾人留学生を引率して中国で研修
することを計画している。

◎

いま横浜市立大学でなにが起 こっているか その2

世にも不思議・横浜市大「入試 ミス誤報」事件(二〇〇二年九月 一日)

横浜市立大学商学部教授、元入試委員長
矢吹 晋

遺憾ながら世に入試ミスは、いくつもあ
る。だが、入試ミスの原因を取り違えた誤報
事件は、滅多にあるものではない。『神奈川
新聞』(二〇〇二年八月三十一日付)は、横浜市
大「採点ミスで三人処分」という記事を掲
げた。ところが、「三人の被処分者のなかに
「採点ミス者」は含まれていない。なぜか記
事全文を読めば分かるように、これは「採点
ミス」ではなく、「得点集計のプログラミン
グのミス」が原因であるからだ。しかし、見

出ししか読まない読者には、「採点ミス」が印
象づけられる。見出しのほかに、記事のなか
に「二回も「採点ミス」が繰り返されているか
らである。

『朝日新聞』(神奈川版、二〇〇二年八月三
一日付)は、「電算処理での入力ミス」に原因
があると報じた。ところが、「三人の被処分
者のなかに「入力ミス者」、すなわち入力担
当者は含まれていない。なぜか。解答用紙か
ら切り取った「短冊」をコンピュータに入力
する際の「入力ミス」ではないからだ。

入試ミスはあってはならないものだ。再
発を防ぐためには、原因を徹底的に究明す
る必要があることはいうまでもない。横浜
市大の入試ミス報道が原因を取り違えてい
るのはなぜであろうか。『朝日新聞』の伝え
る「調査委員会」の報告書がずさんなため
これを読んで、真相ががえってわからなく
なったのではないか。ここで記者たちが誤
解し、誤報している事実はそれを物語るの
ではないか。これでは、「再発防止策」にはな
らない。それを痛感して私は、「調査報告書」
のどこがどのようにおかしいかを分析し
た。*興味のある方にぜひお読みいただき
たい。

*
読者が「採点者のミス」と誤解した事実があ
る以上、訂正記事を書けるべきであります。
特に入試に強い関心を持つ読者ほど簡単に
読み流さず、「採点ミス」と印象深く受け止め
やすい事実を留意すべきであります。貴紙
の用語法を用いれば、「入試ミス」はすべて
「採点ミス」になります。そのような曖昧な
表現は、「受験生本人、またそのご家族(一般
読者)」に入試ミスの真実を報道することに
は到底なりえないことは明らかであります。
ちなみに、同日付の『朝日新聞』には「採点
ミス」の四文字が見当たらないことにご注
意いただきたいと思えます。
以上の理由により、誤報を訂正することに
採点者の名譽を著しく傷つけたことに対す
る謝罪を改めて要求します。
二〇〇二年九月三日
横浜市立大学商学部教授 矢吹晋

「追記二〇〇二年九月五日」

横浜市大入試ミスは、前掲の『神奈川』朝
日』のほか、『毎日』、『東京』も報していま
した。

(1) 『毎日新聞』山本浩資記者は(八月三十一日

「神奈川新聞報道部への抗議文九月三日」

神奈川新聞報道部御中。九月三日付FAX
による「回答をありがとつ」をいただきました。
内容を一読して、驚きを禁じ得ません。真実
の報道を追求すべきジャーナリズムに携わ
る方の回答とは、到底考えられないもので
す。

大学入試において、解答用紙の採点に始
まり、得点集計、合否判定を経て発表に至る
過程には、いくつもの段階があります。それ
らのどの段階においても、ミスの発生が許
されないと、これは改めて申し上げる必
要ありません。合否判定においてミスが
生じた場合には、「どの段階で、なぜ生じた
のか」、その原因を徹底的に解明して初めて
類似のミスの再発を防ぐことができます。

「採点ミス」とは、「採点者による、採点上の
ミスを指す」ことは日本語の常識でありま
す。今回の合否判定ミスは、採点者の手元か
ら離れた段階で生じたものであり、採点者
として責任を負うことはできないものです。
今回の処分において、採点者が処分対象か
ら外されている事実を直視すべきでありま
す。*今回の採点によれば、貴紙は「合否を判定さ
れる入試の採点に関する作業ミス」に包含され
る」と認識して、「採点ミス」と表記した由で

付二六面)にごつ書いています。「英語以外
の外国語を選択した場合、得点を二・五倍に
する傾斜採点方式を採用したが、四人の得
点についてこの処理を忘れた」と。これを讀
むと、英語は二・五倍されます。英語選択者だ
けが損するみたいな書き方ですね。むしろ、
それはいいのです。英語は最初から「素点二
五〇点満点」なのです。だから、「英語以外
の外国語」も英語と同じく「素点二五〇満
点を勝手にいじることをしてしなければ、入試
ミスを防ぐことができたのです。

(2) 『東京新聞(横浜版)』(八月三十一日付)は、
ごつ書いています。「外国語試験で中国語な
ど三力国語を選んだ受験生の得点は二・五
倍にする仕組みだったが、職員がコン
ピューターに傾斜採点の設定をせず二人が
不合格となった」と。やはり、「中国語など三
力国語」を選んだほうが得みたいですね。い
え、英語は素点二五〇点満点だから二・五倍
する必要はないだけの話。つまり英語以外
の外国語も、素点二五〇点満点のままにし
ておけば、二・五倍する必要はなく、ミスは
ありえなかつたのです。

「私の感想」
四つの新聞記事は、いずれも、欠陥報道
です。真実を正確に報道したものは皆無で

あります。しかしながら、「採点ミス」の四
文字を、見出しを含めて三回も繰り返した
ことにより、「受験生本人、またそのご家
族(一般読者)」に「採点者のミス」を印象づ
けることとなります。これはどのような結
果をもたらすでしょうか。本学入試におい
ては、当然ながら出題・採点者名は匿名にさ
れています。しかしながら横浜市立大学商
学部の場合、専任教員で中国語を担当して
いる者が単数であることは、大学が公表し
ている資料から容易に分かります。つまり
建前としては、入試関係者は匿名とされて
いるにもかかわらず、実際には担当者の特
定できる場合もありうるのです。それゆえ
に無視できない問題になります。現に入試
ミスの報道以後、私の研究室宛てに、「抗議」
(ご解釈される)電話を受けた事実がありま
す。つまり採点担当者、実際に被害を受け
ているわけです。「採点ミス」の用語法につ
いて、百歩譲って貴紙の主張を認めたとし
て、採点者の基本的な権、名譽を貴紙はどの
ように認識しておられるのでしょうか。私
が誤報の訂正と謝罪を要求するのは、現に
被害を受けているからであります。
「採点ミス」という表記については、貴紙
の期待通りに広義の含意で受け取る読者も
中にはいるものと思われれますが、相当数の

す。ジャーナリズムは、なぜこのように不正
確なことを書くのでしょうか。この大学の
広報体制は、なぜこのようなミスリーディ
ングな報道を許しているのでしょうか。私
は動戦四半世紀の老兵ですが、こんな異常
な出来事は初めてです。大学をむしばむ病
いは重い、といわざるをえません。

いま横浜市立大学でなにが起 こっているか その3

(矢吹晋まえがき)

『蒼蒼』前号で勤務先のトラブルを紹介さ
せていただいた。この問題は依然解決のメ
ドが立っていない。その後、頂戴した「激励
と抗議」のメールをご紹介させていただき
たい。

(12) 柳チャイニースドラゴン新報社福 田智子氏

横浜市立大学学長様、横浜市長様、請願
書 横浜市立大学の矢吹晋教授より、矢吹教
授の後任を補充せず、中国研究を廃止する
方針がだされたこと聞き、非常に驚いていま
す。というのも、私は三月に上海へ参りまし
た。その折、横浜産業振興公社が上海のHS

BCJHong Kong Shanghai Banking
Corporation)に事務所をおかれていますこと
を知り、横浜市の中国に対する積極的な姿
勢の表れに、非常に高い関心を抱いたこと
を覚えています。その横浜市が中国研究を
廃止するということは、予想さえできない
ことでした。私立大学と比べることはもち
ろんできませんが、中国研究において、他大
学の最近の動きのほんの一部をご参考まで
に挙げますと、国士舘大学の二一世紀アジ
ア学部を設置、早稲田大学の中国研究教員
の増員、立命館大学、早稲田大学の中国の大
学との交流協定締結とつきません。ご承知
の通り、中国と日本は相互補完の関係にあ
り、今後益々中国研究の重要性は増してく
るものだと予想されます。予算上の理由で、
これまでの矢吹教授の中国研究成果を凍結
してしまうようなことになれば、横浜市立
大学の看板を下ろしたといっても過言で
はないと思います。横浜市は日本のなかで
も開かれた都市であると認識しています。
ご再考をお願い致します。
二〇〇二年七月二六日
柳チャイニースドラゴン新報社 福田智子

(13) 横浜市立東高校小松原伴子氏

矢吹先生、原宗子さんより、先生のアピ
ルと「市大で何が起きているか」の文を
送って頂き、取り急ぎメールをさせて頂き
ます。私は、原さんらとともに、小倉先生に
学び、「くまっ集」の世話人の一人です。専
攻は中国近代史。現在は横浜市立東高校に
勤務しながら学習院などの非常勤講師を務
めております(横浜市立高等学校教職員組
合の役員もやっております)。横浜市立高校
においても、数年前から「再編整備計画」と
称して、現場の声をほとんど入れずに、教育
の「スリム化」が進行しています。その一つ
の結果が、本年一〜三月に新聞をにぎわれ
ました高校入試の混乱という形であらわれ
ました。しかし、市教委はその「混乱」の「総
括」をなさないまま、「整備」を続行しよう
としています(詳細については、改めてお知
らせします)。さらに、「この数年、市民の声
にこたえて」という名目で、「研修」について
の「管理」を強化してきています。本年度は、
長期休業期間中の「研修」については、計画
書・報告書を提出することが義務づけられ
ました。大学教員以上に、高校教員には、「研
究」を求めていないのではないかと、思われ
ることもしばしばです。ワールドカレッジ誘
致には金をかけて教育費は削減し、教員の
様々な統制を強化するという市の姿勢は、

真に未来を見据えたものとは思われません。
しかし、こつした傾向は、横浜市のみに限ら
ず、残念ながら全国的な動向といえるよう
です。本心に、「効率」的なもののみが優先さ
れ、大切な学問や思想の自由が、一つ一つ脅
かされる状況が迫っているのではないかと。学
問・教育に携わる者が、結びあひながら、声
をあげていかなければならないと思います。
市大の先生方を取り巻く状況は、市立高校の
教職員とも直接に結びついてきますので、訴
えの末端にでも加えて頂ければ幸いです。メ
ールをさせて頂きました。改めまして、「抗議
文」など、お送りさせて頂きたいと存じます。
横浜市立東高校 小松原伴子

(14) 商学部経済学科四年西原昭子さん

(現役の)学生として先生の下で学び、今
こそ中国に関心を持つべきであるという強い
信念を胸にしております。横浜市の姉妹都市
上海市では浦東開発区を例に挙げるだけで
その注目度たるや言わずもがなでしょう。
今、中国を学ぶとして、いったいどの学ぶとい
うのでしょうか。先生の授業で学ぶ仲間達と
議論する事に、どれほど中国経済を学ぶこと
の喜びを感じたことかと思えます。日本に迫
り来る中国について新たな情報を耳にするこ

とにどれほど心躍らせたことでしょうか。横
濱市立大学で中国経済を学ぶ事ができるこ
とを私は誇りに思っています。しかしなが
ら今後我が大学で学生が中国経済を学ぶ事
ができないと思うと残念で仕方ありません。
大学のなんと、なんと馬鹿な処置でしょう
か……。社会的に最も需要の高い科目の一
つであるこの中国経済、知れば知るほど興
味のつきないこの学問を、もっともっと多
くの人に関心を持って欲しい。私が先生の
授業で得た素晴らしい経験をこれから後輩
達にも経験して欲しいと思ひこそすれ、大
学側はどうして今その道を断ってしまうの
か……。矢吹先生の授業は横浜市立大学の
名物授業ではないか。私は自分の大学の
後輩、さらには高校の後輩にも迷わず私の
所属する中国経済ゼミを紹介することで
しよう。だのに、今後中国経済を教えてください
る先生が居なければそれもできません。大
学当局の再考を強く求めずにはいらませ
ん。

商学部経済学科四年 西原昭子

(15) 横井陽一氏(三一年間の横浜市民)

矢吹晋様、緊急アピールを読ませてい
ただきました。単純な「リスト」旋風に驚

いております。先生の定年と共に横浜市立
大学商学部から中国研究が消えることは、
論外であり、ますます強化しなければなら
ないと思ひます。私は三一年間の横浜市民
ですが、世界経済の中でますます中国経済
と日中経済関係の発展のため、横浜市立大
学は研究センターとなって欲しいし、私に
できることがありますれば協力を惜しみま
せん。大学の「リスト」問題は、まず横浜
市議会で問題を検討すべきことであり、市
民の意見を聞くべきであると思ひます。新
聞にもテレビでも報道されずに、事務方が
独走することは好ましくありません。どう
か先生方には、学内外にアピールして頑
張っていただきたいと思ひます。私はこの
メールのコピーを、『朝日新聞』と『日本経
済新聞』の横浜支局にファックスしておき
ます。
横井陽一

(16) 横浜市は大学改革にあたり説明責 任を果たされた

限られた財源の中でどのような行政サービ
スを提供するべきか。行政主体としては、な
かなか悩ましいところだと思ひます。しか
し、どんなに判断に窮することであって

④も、行政主体は、何らかの判断を示すに当たり、たとえどのような反対が予想されたとしても、個々の意思決定の内容・過程を可能な限り正々堂々と公にする姿勢を持つべきでありましょう。この度、横浜市は、大学改革の一環として矢吹教授の後任を補任しないと決定した旨、聞き及びました。詳しい事情は全くわかりませんが、当事者である教授ご自身が「緊急アピール」なるものを表しておられることから察すると、市当局はほとんど説明責任を果たしておられないのではないのでしょうか。公・民の役割を見直し、効率を高め、ムダを省く行政改革は、果敢に推進されるべきでしょう。しかしながら、個々の事業の改廃について、立法、司法の統制が及びにくい現状がある以上、何をどのように見直し、優先順位をつけて処理するか、行政（担当部局）は、真の市民サービス改善・向上という見地から十分な吟味を行い、少しでも客観的妥当な判断を行っていたらかなければなりません。仮に、さしたる理由もないのに、ある事業（行政サービス）を廃止するとすれば、それまでの公的投資はムダだったということになるでしょう。もし、横浜市立大学が長年、矢吹教授をして提供せしめてきた行政サービス（授業・研究等）が、貴市の提供すべきサービス内容とし

て不都合・不適切・不必要なものであったにもかかわらず、紛争を避けて教授の定年退官まで放置したのだとしたら、私はその怠慢をむしろ追及したいと思えます。貴市は、なにゆえ、今回の決定をなされたのでしょうか。下手な推量をお許しいただければ次のような事柄が考えられてきます。

一 矢吹教授の業績、中国研究の必要性は十分認識しているが、市大の看板講座のひとつである中国研究室を将来にわたり担うだけの人材を獲得する見込が立たず、その名譽を守るため、敢えて後任を補充しない。（これに足る人材を見出せば直ちに復活する。）

二（矢吹教授の業績、中国研究の必要性とは全く関係なく）貴市において提供すべき教授内容ではない、と判断した（たとえ、将来、情報技術系系科大学に改組する等）。しかし、人事管理上の判断で矢吹教授の定年退官まで保留した。

三 行政改革の一環として財政部局から教授定数の削減を求められ、判断に苦しんだ結果、個々の教授の業績、研究の必要性如何にかかわらず、分野を問わず後任者を補充しない形での対応を行うこととした。

四 前項同様、教授定数削減を検討する中で、矢吹教授の専門分野が市の提供する

行政サービスとして特に不適切であるか、又は、教授の業績が特に劣っている、或いは、中国研究を志す学生が皆無に等しいことを確認したため、ポスト廃止が至当であると判断した。

五 大学自治の要請ないしは、外部圧力により、矢吹教授のポストを廃止する必要があった。

以上、市当局に好意的な見解からそうでないものに順に並べておりますが、いずれにせよ、市として一定の判断を示す以上、何らかの判断基準の元に検討がなされたはずであり、学問的な価値を熟知する多くの中国研究者が、市の判断に疑問を投げかけている以上、市のホームページ上に掲載するなど、分かりやすい形で「反論」をご提示されるようお勧めします。もし、上記一から三の理由であるならば、公表を躊躇する事情を測りかねます。公表されないと、四や五、或いはもつと「説明不能ない加減な理由」に依拠しているのではないかと疑念を持たずにはおれません。万一、公表ないしは関係者への説明ができないのであれば、せめて、矢吹教授の業績への評価や中国研究の重要性・必要性に対する認識の有無、市サービスとして提供することの優先度等について、公にするか、少なくとも矢吹教授本人に

は明確に伝えることを提案します。そもそも中国研究など無意味だというのが、市大として行う必要がない或いは優先順位が低いと考えるのか、明らかにすべきでしょう。また、大学職員の皆様にも一言申し上げるとすれば、今回、後任を補充されない先生方はもちろんのこと、すべての先生方にとっても、公立学校の公務員として、教授・研究のような属人的要素の濃厚な行政サービスをどのように自主評価するか、或いは客観的な評価をなされるのか、更に、それらの評価の結果、最終的にどのように行政サービス体系の中に位置付けていくのか、お考えいただくことを切に望みます。公立大学が広く適切に社会的な貢献をなす。市民に誇れる行政サービスを展開する、という点で、私は矢吹教授の取組ほど、重要かつ意義深い貢献を知りません。貴市がこれを否定する材料をお持ちだということならぜひとも拝見したい。

公務員 匿名希望

(17) 中国投資諮詢事務所田中忠仁氏

矢吹先生、ご多忙のなか、御免下さい。商学部第三学科構想大賛成。しかし、先生ならむしろ仮称「日中（親善）実学大学」の設立準備委員長とあられて、日中間各分野で実学と

ワールドワイドで、アジア経済研究所をはじめ、業界団体、ジエトロ、国際貿易促進協会、日中経済協会、霞山会等々、それぞれ活躍なされた上で大学教授になられた方は、中身が違ふなというのが「新米」三金会会員の一月以来半年間の感想です。中嶋嶺雄がなぜ長年間違ったことばかり言い続けても、それが通るのか。中嶋一派や彼の著作を台湾ロビーが大量に買って、ベストセラーの素地を作るので印税が合法的にふところに入ると、それを学内の人気がとり選挙に使うので、学長にまでなってしまうたのでは？でも李登輝基金のやり玉で今後は無理か。魑魅魍魎の大学、特に国立、公立の改革は、焦眉の急ですが、それよりもむしろモデル大学に、学生を集めて（人気教授には特に大学院なら余計により多くの優秀な学生が集まることでしょう）、実績を挙げて行く方が官僚たちには分かりやすいのではないのでしょうか。そういうところの卒業生には（実学だから）、企業の求人もかえって多く集中して、良い方向にまわって行くような感じがします。いや実感としていい。企業も設立準備に献金するのでは？一段落つかれたら、この方面・方向も「考下されば如何でしょうか？多くの方が矢吹先生を応援すると信じます。及ばずながら、小生も

エンの下でも、お支えします。御身お大切に。不。

二〇〇二年八月一日 田中忠仁

(18) 同僚永岑三千輝教授のコメント

矢吹教授の訴え、緊急アピール等に関しては、実に多様な反応があるようで、矢吹教授の仕事が広く社会で注目されていることを示している。次第に広く市民の関心のかで問題が検討されることになる。市立大学である本学の改革は、大学内部の小々なコップの中で議論されるのではなく、市民の中で議論、市議会での議論、市民の広範な関心と要求を踏まえながら進められる必要がある。大学から文科系を切り捨ててもいいの、大学の総合性をなくしてもいいの、従来の総合性を発展させるべきではないの、市民の高級な知的要求を満たす文科系大学院の充実、その基礎となる学部の充実を「ひと、もの、かね」の面でおこなわなくてはいいの、米百俵の精神は、横浜市にはないの、理科系専門大学になつていいの、伝統的な商学部の独自性と個性を喪失させなくてもいいの、市民の大学としてすばらしい水準のものにしていかなくてはいいの、これこそ問われることだ

ろつ。矢吹教授が上記訴えて述べられてい
るように、大学教授の研究の内容について
社会（日本だけでなく、翻訳をつうじてア
メリカをはじめ外国でも）が評価してい
ても、事務局はかならずしも評価しない、と
いう問題がある。逆に、マスコミの評価など
理解できて、専門学で活動している研
究者に対する学界の学問的評価は理解でき
ないという問題もある。大学がさまざま
の学界のなかで厳しい批判と評価の目にさ
らされている実情を理解しないのである。
事務局に迎合するような研究者（往々にし
て平凡な研究者）とは違って、矢吹教授は自
立的・独立的・批判的精神の旺盛な方で、た
からこそさまざまな危険を乗り越え、中国
研究、中国経済論に関して新しい道を次々
と切り開いてきた。たんなる批判だけの研
究者ではない。書物等のかたちでまとめら
れた業績はうなるほどある（矢吹晋先生の
HP）。そのような実力のある教授の矢面に
立たされることは、たしかに厳しいだろう。
視野の狭い保守と出世主義の「お役人」（も
ちろん仕事をしない凡庸な「研究者」）に對
して、矢吹教授の言説はきわめて厳しい。日
本の中国研究の隆盛、日本の二一世紀の発
展方向などを考えるより、自分が席を置く
数年のことだけを考える「お役人」（もちろ

んそのような人々ばかりではなく、実によく
勉強し深い見識を持っている人もいる。た
だ往々にしてそのような人は「出世」しな
い）には、実に煙たい、というところである。
それが、上記訴えの「役人のカゲの声」で描
かれているところである。このような「カゲ
の声」を公開すること自体、痛烈な批判精神
の表明である。つぎの時代、次の段階の学問
的發展をもたらすのは、世の中に見えてい
ない問題点を抉り出すこのような現状批判
の精神であろう。
二〇〇二年八月二日 同僚永寺三千輝教授

(19) 前岡崎嘉平大国際奨学財団事務局
長阿部康男氏

横浜市立大学学長小川恵一殿、中国語の
学習、中国経済の研究がますます重要なも
のになってきていることは、今や日本人に
とって常識であるといえます。とくに商学
部のように、これから経済活動の第一線に
立つて活躍する人材を養成する部門にとつ
ては、まさに不可欠なものと考えます。この
ことは、国家的な見地から見て、見逃せませ
ぬ。貴学商学部に引き続き中国語の学習お
よび中国経済の研究が行われることを切に
希望します。

二〇〇二年八月四日 前岡崎嘉平大国際
奨学財団事務局長阿部康男

(20) 川口正剛君横浜市立大学商学部経
済学科三年

私は、今回の大学による様々な改革案（改
悪案）に真っ向から反対したいと思ひます。
矢吹教授には、一年次の中国語と国際社会
論の授業として、今年度後期の比較社会
論で様々な指導を賜っております。そし
て、わたしにとって忘れられない大きな出
来事、それは昨年度の中国・上海への語学研
修です。私は、昨年度大学のプログラムであ
る上海市内大学への夏期語学研修に参加し
ましたが、そのきっかけは、昨年度の矢吹教
授の講義でした。それまで、近くて遠い「国」
という印象があった中国を、近くて近い「国」
に変えてくださった方、それがまさしく矢
吹教授だったのです。矢吹教授は、授業中、
折に触れ中国の現在の実情をお話してくだ
さり、また、教授自らが見聞きしてきた、生
の中国を私たち学生に事細かに教授してく
ださいました。これらの話や見聞録が私た
ち学生にとってどれほど勉強になりましたか。
それは筆舌に尽くしがたいものがあります。
さらに、現代中国は世界的な不況にあえぐ

中でなお、年間一〇%近い経済成長を続けて
いる国であり、二一世紀は中国の時代だ」と
いう専門家までいるほどです。そのような時
代の流れにあつて、横浜市立大学では、唯一
の中国研究を担う教授である矢吹教授の退官
にあわせ、その後の補充人事を凍結し、中国
研究の根を絶やそうという、時代の流れとは
全く正反対の方向に向かう暴挙に出たので
す。これは、横浜市立大学が時代の流れに乗
り遅れ、やがては大学消滅という最悪のシナ
リオへの序曲といつても過言ではないと私は
考えます。私は、現在横浜市立大学へ通う現
役の学生として、自分の通う大学をこれまで
誇りに思っていました。しかし、市長が変わ
り、学長が変わった今、これからの大学像と
して描かれたのは、私たち学生や教職員の
方々、市民を抜きにした、まさにメチャク
チャな方針でした。このような姿を見るにつ
け、これまでこの大学に持っていた誇りはも
ろくも崩れ去り、ただ空しさや悔しさ、そし
て憤りが沸々と湧いてきています。今回の大
学の改革案は、冒頭にも書いたように明らか
な「改悪案」です。私だけではなく、横浜市
立大学に通う全学生がきつと、私と同じ気持
ちだと考えています。そして、この気持ち
はこの「改悪案」を起草し、了承した一部の教
職員以外にも、そして、多くの市民にも共通

の考えだと私は考えています。この「改悪
案」が、これからの横浜市立大学のさらなる
發展を願う多くの仲間によって撤回される
ことを期待してやみません。
川口正剛 横浜市立大学商学部経済学科三年

(21) 横浜市立大学名誉教授佐藤経明氏

横浜市立大学学長小川恵一殿、CC：商学部
教授会・御中

明二〇〇三年三月から二〇〇四年三月に
定年を迎える教授の後任人事を、凍結する
という決定が下されようとしている由です
が、このうち矢吹教授にかんしては同氏の
採用当時、私が推薦したことでもあり、い
ささか卑見を述べさせて頂きたいと思いま
す。今日、国公立立を問わず大学が再編の渦
の中に巻き込まれつつあり、横浜市大にお
いても当事者のご苦労は推察に難くありま
せん。しかし、この人事に関しては慎重な配
慮が必要であり、いわずや「凍結」が専任講
座「廃止」に繋がりにかねないことを考えま
す。尚更と言わなければなりません。第一
に、元西ドイツ首相・老ヘルムート・シュ
ミットは、この二〇一三〇年後、東アジアの
中心となるのは日本ではなくて中国だ」と
喝破していますが、この中国とわが国がど

のように連携を保つかは、おそらく国運を
左右するでありましよう。そのためには中
国研究の重要性は高まりこそすれ、下がる
ことはありません。第二に最も重要なこと
には、矢吹教授は赴任以来、その該博な中
国に関する知識に加え、度重なる現地調査
で多数の論文・著書を発表、中国に関する正
確な情報を江湖に提供してきました。国際
会議へのたびたびの参加は勿論、英文著書
の刊行で国外からも高く評価されています。
その結果「横浜市大の矢吹」ということで市
大の評価を高めたことは、市大が同教授に
負うことでもありません。すでに内外で
確立したかに見える「横浜市大の中国研究」
の伝統を絶やさないよう、ここで慎重なこ
配慮を願ってやみません。
二〇〇二年八月八日
横浜市立大学名誉教授 佐藤経明

(21) 横浜市立大学佐藤経明名誉教授
の学長宛てメール

横浜市立大学学長小川恵一様、残暑お見
舞い申し上げます。ずっと他所で過して
いましたので、帰宅後思いがけずもお返事
を拝見し、誠に恐縮致しました。ご趣旨は一
心、諒解いたしました。しかしながら必

いたのですが、改革するところを間違っているようです。

矢吹先生の奮闘 祈念いたしております。

紀陽リース・キャピタル株式会社 栗山重信

(25) 立教大学法学部教授高原明生氏

横浜市立大学学長殿、貴大学商学部の中
国研究の火を絶やさないでください。

冠省 私立立教大学で中国政治を教える
ている教員です。私が日々実感することです
が、現在の日本社会において、中国研究およ
び中国についての教育の必要性、そしてそ
れに対する現実の需要はうなぎのぼりに増
大しています。その事情は、恐らく商部・横
浜においても同様、いや平均以上であるう
と思います。貴大学商学部の中国研究の火
を何とか絶やさないでいただきたいと思い、
矢吹晋教授の後任を採用しないという決定
のご再考を強くお願いするところでです。
草々

立教大学法学部教授 高原明生

5

星野晋夫(武蔵大学経済学部)
(23) 三井物産TKCLM、黄晓京氏
私は元々中国経済体制研究所の研究員で
あり、天安門事件前に来日し、現在三井物産
に勤務しています。この数年間、ずっと先生
のホームページの忠実な読者の一人です。
中国関連事業を担当する一商社マンの立場
から先生のホームページより多くのことを
勉強し、自分の仕事にも非常に役に立つた
と思います。先生の中国研究、先生のページ
は 社会的需要 が非常に高いと思います。
横浜市立大学の改革案は不可解な行動であ
ると思います。先生の抗議行動に応援致し
ます。以上。

黄晓京 三井物産TKCLM

(24) 紀陽リース・キャピタル株式会社
栗山重信氏

横浜市立大学に関する矢吹先生のHPを
拝読させていただきました。ここ数年の中
国経済の発展より、クローズアップされて
きた中国研究について矢吹先生の後任を育
成しないとは大学側はどう考えているので
しょうか。横浜に新市長が誕生し期待して

ずしも説得力があるようには見受けられま
せん。二〇〇三、二〇〇四年の二年間に定
年ないし自発的退職、転勤をされる教員数
は各学部・研究所を通じかなりの数になる
と推定されます。その中から「緊迫した事態
に置かれている市立大学」を理解させるた
めの手段として商学部の三人を選定するの
は、選定基準だけからしてもコンセンサス
を得られ難いと考えます。いささか「勇み
足」の感みなしとしません。こういふ普通で
ない手段をとる場合には、大学における合
意と選定基準の妥当性を多数の人が納得す
ることが必要でありましよう。とりあえず
「白紙」に戻し、大学内の合意を得るための
努力をされるのが先決ではないかと思考
いたします。取り急ぎお礼とお返事まで。
二〇〇二年八月二十七日

横浜市立大学名誉教授佐藤 経明

(22) 武蔵大学経済学部教授星野晋夫氏

横浜市立大学殿、商学部における中国研
究の継続を強く要望します。

星野晋夫(武蔵大学経済学部)

中国WTO加盟

中国WTO加盟に関する日本交渉チーム

「昨年越境の中国WTOの加盟
が世界的に及ぼす影響や、実
際的に業務と備付けで感望
を記した書籍は、加盟のタイ
ミングと前後して数多く出版
されているけれども、それら
は多く民間の立場から書かれ
たもので、本書は外務省・経済
産業省、財務省、農林省の立場



著者 佐藤 経明
定価 2400円
四十一頁

相違点が書き下ろしている異
味深いもの、各交渉相手の立
場から見た、専門性から来る
細部における解説の新鮮さ、
加盟文書の解説を試みている
だけあって、全体を俯瞰しふ
かんとするものとは一味違っ
た、「彼の事情がある」(ガイ
ドブック)となっている。
序論では、「加盟手続と加
盟交渉」を題し、WTOと中
国の関係について歴史をさか
のぼってあらましを概説。日
中・中米・中印などと「四国
協議の流れや、米中国との経
緯も、それぞれの立場から論
議してあり、その知識を先に

神戸大学大学院経営学研究科助教
黄 磷 編著
WTO加盟後の中国市場
流通と物流がこう変わる

A5判二〇八頁 定価二四〇〇円十税

WTO加盟によって中国国内市場と流通産業
がどう変わるかを長期的な視点でとらえた調
査報告書。

